



利口
1077
#2

第才上

十六歲 源氏為中將 少為為中將

光君稱号事

夏為和物語品定事

願中將見源氏君 艷書未事

右馬以右式部並系蘇御物忌

事

女房不定再此問答事

右馬願物語女自人事

次中將、物部姫女事、夕顔、上是也

式、了、巫物部、女、事

翌日、源氏、君、退、出、葵、上、宿、事

其夜、為、中、神、方、遠、一、宿、紀、伊、守、中

川、家、事

同時、始、見、空、蟬、君、事、元、舒、君、控、中、御

右、衛、門、借、女、為、伊、守、守、家

小、君、初、奏、源、氏、事、小、君、元、舒、君、之、方、也

小、君、傳、源、氏、書、於、空、蟬、君、事

源、氏、又、為、方、遠、宿、中、川、家、事

空、蟬、君、不、見、奏、事

曰ふる之ヶ年乃事し物後し
和見しし 但相量の来乃 綱也
付卷乃しし 其の彼れ約し 之年の
事ししししし

係中十六乃事しし

卷のふれ事

わがふも何しすしししし
しあふ事ししししししし
是則ししししししししし

よじ事しとりししししし
の事しし物物あししし
しししししししししし
意ししししししししし
要なりしあのししししし
又人同乃事ししししし
の理なりしししししし
しししししししししし
紙に云は事ししししし

中河の首をそ保中とう河野との
 贈答此奇をそ法け多り是則
 うあやのんんしてわらぬ君のみや
 りふ奇ととれふ奇くう河野と
 あらうう遊くそまうく物とわら
 とらんれとやうそ名よん保中りけ
 妻の右われと此物信五十日信よ
 とよらうふんや其ゆんけ物信を
 信くり事くそあさこゆよそあま

とも又昔あう事ともと西け
 ろくくけあやうり相違れふこと
 延新くあさこりなり光保中と
 う明公よよそ人菅並相乃中と残
 うり業平乃行跡を撰り
 可くよおりなりふ事あはり
 なしこれともくかある地と
 られのあくやうそ物うやうれのあ
 物く仍一部此惣はなり天高も

抄て表れ信橋
 とらあちのい
 うはあはははは
 信そりり信を
 名くそ定家信
 妻のよのあは
 信くそては
 かわく横を
 元中うそあ
 こそうのあは
 こそり

かものよゝるは是と法苑乃閑纏カキキ
之量義終よ准すのりりこそけ
きしりしりしりて善のうさしり
しり終るあしり

付巻と序分とふいお後一部れ
作ワカ極のちままとわしりり又け
きと法苑乃二巻よもわつりや
其れ二のまれ娘の譬喻あや
付巻と海しりり人のれとわしり

多しりしり事しりり是りりりりり
あしりしりぬあしりり第すれ
ゆと所しりれりりれ又相違れ並と
云い先表とらりりりりりりりりり
てきりりりりりりりりりりりりり
其れ娘の先原中りりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりり

光保中ノ其の事と
あつれぬとつあつらん

^の光保中とつあつらん

まゝにゆれとある事
りいけしとつあつらん
名のとつあつらん
りいけしとつあつらん
の事とつあつらん
りいけしとつあつらん

花菱 花菱乃 詞きりつや乃 流し。光
君とらふ海しらの物とて世に
しよふとていふことあり
新 花菱とていふことあり
多れぬとていふことあり
編みり

紙 紙は云ふ所の事と
光原中とていふことあり
とらふとていふことあり

花菱 花菱乃 詞きりつや乃 流し。光
君とらふ海しらの物とて世に
しよふとていふことあり

花菱 花菱乃 詞きりつや乃 流し。光
君とらふ海しらの物とて世に
しよふとていふことあり

ありとありされども世乃一人
乃りとのなりし 兼て同之

名乃之 兼て曰老子經云 道下道非
常道若下若非常若 恒史若
者之之之總稱有富貴尊榮高
世之若自有自然 常在之若常在
若如嬰兒之未言 雞子之未明 珠
玉蚌中養玉處石間內雖昭々
外如願恩 吾若天地之始有若

万物之母尺之其在人心則齊然不
動之地大極未分則 實有春秋冬
夏之若齊然不動則 實有仁義禮
智之若故曰无若天地之始其謂之
也 既以為此之喻也 既有陰陽之若
則千變万化皆由此出 既有仁義
之名則千條万端自此而始
天地者非專言天地 論語子路
篇云子貢問曰知人皆好之何如

子曰未可也郷人皆惡之何如子曰
未可也不知郷人之善者好之其
不善者知之其不善者惡之也
又求大善者不キナトセ疵小瑕

私曰箋二老子經以下とをあり
付克係中の名もわきうととしく
りひあひしふ經し世にたう名
よありうり又有りぬる万物の母と
いとも

千條百端のやあしそくをさゆ
そらふんしをちり又論語とい
けらぬの世らなりひものぬに一様さく
善悪わりのありうれの子首も今
これしとせりあしよしとよ
あしんと孔子はさふも下なりと
とらふしけりそあしめれんといふ
も又下ありとさういひのさう思
これりしきあしめれんといふ

いなりとてしなりまふふせれんし
かみか事いひぬり結句よとて
ふらふらきまのあはれを
思らふ事ぞ人乃にうへし
それいあふらふ人乃に原乃
とうとひらふらふとも世に
あふらふらふ又大義とて
かみか小殿とてきつとて
いふも大しらめ乃よふらふ人

サ乃事いひけし事いひて
あふらふらふこれの事とて
わらふらふ義養若なりあふらふ
世人とて失とていひけしと
好文此事とていひあふらふ
以上義ノ儀なり

いとよまふらふこととて
それより好文此事也 秘因
義付詞より好文乃事とて

泣起をいそれわり

くろあらしうき

石良 イカサキ ヨカラス

源

うきうきにおもひのあはれをいそめ
うきうきにおもひのあはれをいそめ
うきうきにおもひのあはれをいそめ
うきうきにおもひのあはれをいそめ
うきうきにおもひのあはれをいそめ
うきうきにおもひのあはれをいそめ
うきうきにおもひのあはれをいそめ
うきうきにおもひのあはれをいそめ
うきうきにおもひのあはれをいそめ
うきうきにおもひのあはれをいそめ

あのみねをいそめ
あのみねをいそめ
あのみねをいそめ
あのみねをいそめ
あのみねをいそめ
あのみねをいそめ
あのみねをいそめ
あのみねをいそめ
あのみねをいそめ
あのみねをいそめ

河 鏡文

在伝書

顔眉

同上

真立 マダタテ

あのみねをいそめ
あのみねをいそめ
あのみねをいそめ
あのみねをいそめ
あのみねをいそめ
あのみねをいそめ
あのみねをいそめ
あのみねをいそめ
あのみねをいそめ
あのみねをいそめ

あのみねをいそめ

物語乃例よふにせし是又一種也
皮刃流よ在中納り事しよといふ
しして流くといふ事しよといふ
むうといふこれをもその流よ及に
紙流のこ流のなる事しよといふ
物れと作ぬ流しよといふ此れは
さういふなりこれいふ事しよ
まこのこ流り光流事しよといふ
と向付しはあり流しよ葉式部

この合しありし事しよ
紙のこ流のなる事しよ物語の流し
女細そ流る事しよといふ
この女流も夫性好ましく
あつるこ流りし流事しよといふ
て下し好まの事ありし流し
女流よ流る事しよ好まの事し
さういふ事しよといふ流の事し
真しといふ事しよといふ

惣備乃細みり

中^半の^半なる^半に^半あ^半る^半に^半行^半

秘^半こ^半の^半より^半の^半細^半こ^半る^半

付^半時^半源^半北^半南^半店^半中^半の^半物^半に^半れ^半る^半に^半あ^半る^半

の^半事^半と^半後^半に^半行^半は^半る^半に^半あ^半る^半

ま^半の^半言^半は^半る^半に^半あ^半る^半に^半あ^半る^半

箋^半同^半く

紙^半に^半付^半卷^半と^半の^半物^半に^半あ^半る^半に^半あ^半る^半

ま^半の^半中^半の^半物^半に^半あ^半る^半に^半あ^半る^半

時^半の^半事^半に^半あ^半る^半に^半あ^半る^半

ま^半の^半事^半に^半あ^半る^半に^半あ^半る^半

ま^半の^半事^半に^半あ^半る^半に^半あ^半る^半

ま^半の^半事^半に^半あ^半る^半に^半あ^半る^半

ま^半の^半事^半に^半あ^半る^半に^半あ^半る^半

ま^半の^半事^半に^半あ^半る^半に^半あ^半る^半

ま^半の^半事^半に^半あ^半る^半に^半あ^半る^半

ま^半の^半事^半に^半あ^半る^半に^半あ^半る^半

ま^半の^半事^半に^半あ^半る^半に^半あ^半る^半

中納言の御一紙一乃る
去のうらひの御一紙一乃る
物あつての御一紙一乃る
年中の御一紙一乃る
彼後一紙一乃る
友と一紙一乃る
和別と一紙一乃る
秘物紙一紙一乃る
田子の御一紙一乃る

心程一紙一乃る
義相一紙一乃る
一紙一乃る
て大の御一紙一乃る
よの御一紙一乃る
秘物一紙一乃る

おほの御一紙一乃る
一紙一乃る
一紙一乃る
一紙一乃る
一紙一乃る

— 夢の細

よのちろろとれと

^{奥の川}あはれみのわらわら

あふのみとれと

^秘心裏とららるる

とんとと夢と

ととととと

や花鳥と友つ

新ととと

標とと

^葉うれと

はとと

よもあ

^葉花鳥と

紙はと

あはれ

屋中と

物と

美よりり流車折よとあふふふ
てふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ

集られたるは

此段の巻皆流の車折あり
ゆふふふふふふふふふ

らふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふ

紙のふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ

てのりこゝしむるまゝのこゝろあり
くぬの多し事しもあるなりし
ありぬれまゝのこゝろ

^秘花よ六月とありしはれはる六月

うらへし 葉 紙はありし

^長霖 霖 尔雅曰三日以上曰霖

私曰之葉つ乃一言類の百そよ
霖の字と名れ部よおされり
あつはらふれとも訓 せん

又九とさうして六月あるは用ふるは
一葉もよ六月とありしは六月
より物しはれはる六月は晴る
はる

うられ御あり

内裡は此の事也

物事 叶 義浄

之藏説

^伽毘羅 ^羅 衛 ^國 大鬼神王之

かたしすともとく冠よさすあらわ
け思きよいふの自こしるるるるる
れそまらつひよゆるるるる

築山也まの錯陣しれとつ
水巻乃るるるるるるる
御よく外音のくそくそく
夜つるるるるるるるる
巻外しりし知れぬ毎日此巻も
御巻とけけしあ巻此御巻を

りまものくそりの志とつ二回
切巻出入のりれいつあを殿よれ
小巻巻しとつとつれ大巻のけ
巻巻し大巻乃集りこりあ
新通るぬぬ凡御あ志の時
化の殿し御し錯事巻
中しとつれけり言方洋よ東
巻(御御進房)云神明天道
と敷しとつとつとつ

以上禁秘抄の義

又御物三教日記に云く事よりの事
ゆきし女くうりさの屋あはれし

和日これ禁中の作法なり
其外昔の事さしきとせしむ

いふみみ

久しき語

心よりの事さしきとせしむ
此よりさしきとせしむ

和日殿におりし事

これ又前より事さしきとせしむ
わたり

和よりの事

禁中以下その事何れも
とせしむ
和日

和日
和日

和日

加可くはるる 治漸優長轉

日本紀 范題

兼云うい海のまに治定のなる

程行よくし 願中お乃原よ

何事もととくぬと云

中何れまことえたりとよあしと後

了もとらう

原秘とていひつれたりとあつ

礼義ともなれともなふの行と

かこ海りともとすいこれなる

横なるとも 是かさしちののなる

まのうらとふい事いさあ

はらう

つと物り

教日あるういさしとあはる

いさしとあはるいさしとあはる

程のよらるるあはる

さし物いさしとあはる

艶書ヒキ也 又端ヒキより

ふりあつて

源の初中將よからせしものなり
ゆゑに

あつて

片輪ヒキ 頭也ヒキ

その中ヒキに
なり下りて
なり
なり

其のうらとけて

又頭中ヒキの初ヒキなり
そらとけて

ねみ

又中ヒキの早下ヒキの初ヒキ

あつて
あつて
あつて

紙はさうり物とさとりかたり係申と
頼中物とのあうひ乃詞を所
るにまじり物り但專人それ
とらひすさる次一係申の物あり
つさと又及中物の詞やんさ
んぬあささい又まじり物り
すさうらひすさささ事
知信乃のさひやれんそのさ
とさささささささ

何んささ

一多ん物ささ
ささ

あささ

大勢さ 大勢さ
あさ大勢さ

それ二乃まられ
決のまらささ
はつさささささ
決乃さ

わつしとさき

うへつちとさき

紙のよ中納保申乃言一阿家
数書とつちのふとそつち保御也
くそつち阿一あつち一わつちと
とせられつちつちつちつちつち
とつち又阿つちつちつちつちつち
つちつちのなつちつちつちつちつち
つちつちをま子れ地つちつちつち

つちつちつちつちつちつちつち
つちつちつちつちつちつちつち
秘抄義并句夜乃言書おけ一彼
ま子乃地一振家つちつちつちつち
細

あつちつちつちつちつち

以中納のなつちつちつちつちつち
同細

心あつちつち

新^ら々々々々々々々

申^らのりわあ

ひみのねいさきしんしんしんしんしん

将のらわあああ

ひこらあ

いささきしんしんしんしんしんしん

いささきしんしん

いささきしん

原の用捨棄一物(秀角よとす)

みさあかすりりりりりりりりりり

いささきしんしんしんしんしんしん

あさきしんしんしんしんしんしん

いささきしんしんしん

いささきしん

原の細(下^らりりり) 花^らりり

りり

いささきしんしんしんしんしんしん

いささきしんしんしんしんしんしん

おりのわろく免それとて世に
此はしるも心くらしく居る
海の終

以て終りし所なりとて

中將の紀

女のそれとていふらん

それとていふは為すも

范
それとていふは中將の紀

一段ありし一節一段中將の紀

美秘蔵の美と角 おとと免れ

か

難行の向しとていふれとて難行

行つたのわろくしる

義曰 慈恩大神の御子 御

大神、梵網ノ如迹云、女人が

中、有十惡事、從生至死、不得

自在

~~~~~



おろしりりり

うもぬいよ

それとも

実り事 (一) 人 夢 男 女 (一) 海

こころれ名 (一) 心 志 海 女 (一) 心 志

一 女 の 後 (一)

其 (一) 心 志 海 女 (一) 心 志

と 如

紙 伝 ち よ り (一) 心 志 海 女 (一) 心 志

と 心 志 海 女 (一) 心 志

紙 伝 ち よ り (一) 心 志 海 女 (一) 心 志

と 心 志 海 女 (一) 心 志

紙 伝 ち よ り (一) 心 志 海 女 (一) 心 志

と 心 志 海 女 (一) 心 志

紙 伝 ち よ り (一) 心 志 海 女 (一) 心 志

と 心 志 海 女 (一) 心 志

紙 伝 ち よ り (一) 心 志 海 女 (一) 心 志

と 心 志 海 女 (一) 心 志

知わらぬもわらぬと行つ知わらぬも  
わらぬとわらぬとわらぬとわらぬと  
わらぬとわらぬとわらぬとわらぬと  
わらぬとわらぬとわらぬとわらぬと  
わらぬとわらぬとわらぬとわらぬと  
わらぬとわらぬとわらぬとわらぬと  
わらぬとわらぬとわらぬとわらぬと  
わらぬとわらぬとわらぬとわらぬと  
わらぬとわらぬとわらぬとわらぬと  
わらぬとわらぬとわらぬとわらぬと

乃事よらぬとわらぬとわらぬと  
わらぬとわらぬとわらぬとわらぬと  
わらぬとわらぬとわらぬとわらぬと  
わらぬとわらぬとわらぬとわらぬと  
わらぬとわらぬとわらぬとわらぬと  
わらぬとわらぬとわらぬとわらぬと  
わらぬとわらぬとわらぬとわらぬと  
わらぬとわらぬとわらぬとわらぬと  
わらぬとわらぬとわらぬとわらぬと  
わらぬとわらぬとわらぬとわらぬと

わらぬとわらぬとわらぬとわらぬと



神は是も前の所へいふわらふ

秘 なるくわらふ

何うもよひの事わかれ

我りとらひまゝ人よやふ心よ

りふまり女の心

私云ふうきわらふらふ

又これよめらふ心よ

りふまり

図書らとらひ

さらんとおとめらふ

婦よき事なとらふ如く西の女

の事

あはれらふ

一足り

あひとれらりれ子言れ中

夫<sup>あはれ</sup>もれ<sup>あはれ</sup>生長し<sup>あはれ</sup>末嫁乃女と

つら

苗<sup>あはれ</sup>日<sup>あはれ</sup>楊<sup>あはれ</sup>家<sup>あはれ</sup>有<sup>あはれ</sup>女<sup>あはれ</sup>初<sup>あはれ</sup>長<sup>あはれ</sup>成<sup>あはれ</sup>養<sup>あはれ</sup>在<sup>あはれ</sup>深<sup>あはれ</sup>忘<sup>あはれ</sup>

人未識 長恨新

わさしむ

片方 行日 廉 日記 ありしは

まことよ美え

まことよ美え

秘 弄 ともよもい 舞ともよもい 平よよと

まことよ美え

まことよ美え

まことよ美え

まことよ美え

まことよ美え

まことよ美え

まことよ美え

秘 穂 今序 細く其のえ

まことよ美え

まことよ美え

まことよ美え

まことよ美え

都ノ美名書

くうれいふん

<sup>IT</sup>くうれいふん(ふん)ふん(ふん)ふん(ふん)

のくうれいふん

<sup>13</sup>くうれいふん(ふん)ふん(ふん)ふん(ふん)

<sup>秘</sup>末(秘)にじり(秘)ふん(秘)ふん(秘)ふん(秘)

海の名とあはれ(類) 自然

一(秘)ふん(秘)ふん(秘)ふん(秘)ふん(秘)

ふん(秘)ふん(秘)ふん(秘)

<sup>秘</sup>中(秘)ふん(秘)ふん(秘)ふん(秘)ふん(秘)

狩(秘)の(秘)其(秘)名(秘)の(秘)ふん(秘)ふん(秘)

ふん(秘)ふん(秘)ふん(秘)ふん(秘)ふん(秘)

ふん(秘)ふん(秘)ふん(秘)

は(秘)く(秘)う(秘)ら(秘)い(秘)

<sup>秘</sup>は(秘)く(秘)う(秘)ら(秘)い(秘)ふん(秘)ふん(秘)

ふん(秘)ふん(秘)ふん(秘)ふん(秘)ふん(秘)

ふん(秘)ふん(秘)ふん(秘)

ふん(秘)ふん(秘)ふん(秘)ふん(秘)ふん(秘)



来はしとあはらなりしはくしんらふ  
届ふれとあはらなりしはくしんらふ  
まけまはらとあはれと終と終  
所のぬらとあはれとあはらなりし  
りか

義云 まつしはおあはら

うあはらなりしはくしんらふ  
義云うらなりしはくしんらふ  
うらなりしはくしんらふ

以中<sup>并</sup>將のあはらなりしはくしんらふ  
こすうらなりしはくしんらふ

私云歌中<sup>并</sup>のあはらなりしはくしんらふ  
ていあはらなりしはくしんらふ  
しあはらなりしはくしんらふ  
くも中<sup>并</sup>のあはらなりしはくしんらふ  
あはらなりしはくしんらふ  
は相<sup>并</sup>あはらなりしはくしんらふ  
らあはらなりしはくしんらふ

源の心(あり〜いんげんspan)

我も

源( <sup>花</sup> 中二段源の心)

うらり〜あま

源の神(

まのう〜いんげん

源の心( あま〜いんげん)

まは 花の心( あま〜いんげん)

ま( あま〜いんげん)

ま( あま〜いんげん)

あ( あま〜いんげん)

いんげん

中( あま〜いんげん)

いんげん

いんげん

いんげん

いんげん

いんげん



中上中々中下 下上  
下中下々 愚人 秘曰  
よきなり聖人と下々此愚人の  
中れなりか

人此品多し  
是より人此品とて  
てその種性多し  
人とりあり 或抄御院

佐多し人此品とて  
なりし事とて  
くし事とて  
のりし事とて  
そのけりし事  
自著  
なり

氣 日記 形勢 新撰事紀 景氣

各付世々 相違あり  
各付大徳のありし事



御用儀に付て申上る候に  
秘事下に付

申上る事申上る人の名に

是宛の御用儀に付て申上る候に

又申上る候に付て申上る候に

申上る候に付て

私云く申上る候に付て

申上る候に

申上る候に

我々申上る候に

或候の御用儀に付て申上る候に  
宣假中シラゲナカの中ナカ申上る候に  
申上る候に

申上る候に

下宛の御用儀に付て申上る候に

申上る候に付て申上る候に

申上る候に

下宛の御用儀に付て申上る候に

申上る候に付て申上る候に

あしあきの約のあしあき  
あしあきあしあきあしあき  
あしあきあしあきあしあき  
あしあきあしあきあしあき

あしあきあしあき

あしあきのあしあきあしあき  
あしあきあしあきあしあき  
あしあきあしあきあしあき  
あしあきあしあきあしあき  
あしあきあしあきあしあき

あしあきあしあき

あしあきのあしあき

あしあきあしあきあしあき

あしあきのあしあきあしあき

あしあきあしあきあしあき

あしあき

あしあきあしあきあしあき

あしあきあしあき

あしあきあしあき

前とほくさくさの海の細

是を待たせたるさくさくみれぬ

それとさくさくさく官位を包

さくさくさくさくさくさく

上は乃人れもさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさく

叙金さくさくさくさくさく

早乃さくさくさくさくさく

心さくさく

又乃とさくさくさくさく

直人 諸をさく 中流事書さく

さくさくさくさく

伊勢の海さくさくさくさく

母さくさくさくさくさく

は乃とさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさく

たさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさく



よるもの事よる事んあ  
けりしよる出せり妙なり

世のよる物なり

けりし好色のあこわり言ぬ世の人  
乃ういともよるなり併然りは  
多かり

中將ゆらりて

中乃のるぬとけりて批判と  
ゆらり

けり

源の同姓一ニテ條の義

いよるあこる事

源の作者の詞

同本云やあこる事とらふは  
中將ゆらりて事あふは  
とまことなり

ゆらりのうれ

源の批判し源の語り

子なり

義口原氏二十條の問乃うらうし  
先持姓よきし人此あらもれしは  
とらふしあつ人の成のありしころを  
ありと問のよ馬及び昔の先ら成  
しき成のありしころとて次母  
らあふたうきとらうしふれも  
法みの編後ヒキのあらしうし二問ニ  
行しあつ時れら乃問と先うて

次よししあれ問と昔を例なり  
そんり終よあつし

義トウ衆多の登用トウをさうし  
この事し性トウえうじすあ有内信  
りし子の類し 紙トウ信秘抄未  
あつし

前乃原の二ヶ條の問と申お乃  
批判せんししあつるあ  
式アまらうしあつて

定ふよりのまゝおとこりあつたれ  
屋うさうげとりてり物うそれ  
了十八回昔なり 是中一段馬  
顔細

秘

南時うりのうほくを世間  
暇日今日中そあつてもあつた  
そとありひらひらとてり昇  
みとわつたつたあつたあ  
もあつたあ

紙の回

私とつたつたつたつたつた  
行つたつたつたつたつた  
根中つたつたつたつたつた  
世の人差別つたつたつたつた  
もつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつた  
美之品秩多つたつたつたつた  
てつたつたつたつたつた  
つたつたつたつたつたつた  
つたつたつたつたつたつた

室輝中絶之女

伊予守おちのり

世にふらふら

河使 万葉

んごふりて

しーのんらせ

らぬらり

らららら

事のあらぬらりのちりら

たのむらりのちりら

事とりのちりら

又られもまつひなからいはるらんのちりら

らららのちりらのちりら

はらのちりらのちりら

紙はらのちりら

けのちりらのちりら

約のちりら

ららららら

ららららら



徳道よのる不及とさうらして中庸  
とさうらして佛教よのる空假中乃  
中道とさうらして

とさうらしてこれ國の

又中れあふとさうらして人なり事

と交領と名徳女の守し 國衛

官周の事とさうらしてさうらして

并稱は来別家の疾乃教とさう

義同之

秘 朝方の疾乃教し 國乃あふん

一<sup>イナニ</sup>行<sup>ニ</sup>年<sup>ニ</sup>行<sup>ニ</sup>とさうらして

とさう人のまれ事とさうらして

勢と佐うこと佐人さうらして

儀乃兼國を指する人し 恩

業交領とさうらして人れと句と

さうらしてさうらして或物御説

人のまとは口平れさうらの國れ

危しうれしとのさうらして



と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

と云ふ事なり

申す事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

と云ふ事なり

生じ居る事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

此紫明

と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

水森議乃曰位と云ふ

と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

外と水森議と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

乃歎

私云大申細云宰相申してと泰議  
ありしをそと政官して天下の  
政と留しそりけりゆとる義  
それの如してそと政官の  
別しそと宰相乃事なり  
それよとぬは位とそと  
の如しなりそとめらと政官  
しありそと但そと政官は  
なりとそと二位と位と

云義ありゆ

世ありえ

當時のありえわたり

い届わぬ

終始も下たりぬ

わす

政官の如しはもたなりとこれ  
そと泰議なりは力のいとゆし  
ありとあり

此の録しに属しあつ物と云  
不明を入るる事あり 紙は  
秘抄 幾同之 又明石よりし  
なりとあり

かゝる事ありや  
み海ありはさしけりは名あり人  
のしはともさくれ多はと云  
ありしはと云し對してなり  
るしき

秘抄  
さつやるるなり

因事云々これいふは  
しつり 弁察なりなり

私云 史記 爲事記 諸 カハラカナリト  
古事 爲せりありは調ト云  
ぬれ末乃 紀し多しぬ事しを  
ささみありありとありは

諸の調しと云せり

ささみ

とつと物とハテ有カスス

何事云々つとつとふとつとつとやれ  
羽しておとあふとそと羽と云々  
けさ多しぬ事とおろふとつと  
あり多しぬ事と云々わらぬ事と  
とつとつとつと 象乃うら石足  
何事と云々有  
たれあつとつとつとつとつと  
つと

海ももつとつと 其乃力のつとつと  
とつとつとつとつとつとつと  
つとつとつとつとつとつと

つとつとつと

つとつとつとつとつとつとつと  
つとつとつとつとつとつとつと  
つとつとつとつとつとつとつと

宮匠人よつとつと

つと 柘堂乃衣乃敷

諸抄目

付類心しん〜いぬり〜わり〜  
〜りあり

すゝめあまきこしきよ

第<sup>宛</sup>二<sup>宛</sup>波 深<sup>深</sup>中<sup>中</sup>君<sup>君</sup>の<sup>の</sup>御<sup>御</sup>

鑑<sup>三平</sup> 和<sup>和</sup>石<sup>石</sup>新<sup>新</sup>後<sup>後</sup>系<sup>系</sup>能<sup>能</sup> 富<sup>三平</sup>鏡<sup>鏡</sup>

箋<sup>箋</sup>云<sup>云</sup>上<sup>上</sup>俤<sup>俤</sup>乃<sup>乃</sup>評<sup>評</sup>論<sup>論</sup>貴<sup>貴</sup>乃<sup>乃</sup>子<sup>子</sup>零<sup>零</sup>

乃<sup>乃</sup>最<sup>最</sup>と<sup>と</sup>皮<sup>皮</sup>引<sup>引</sup>く<sup>く</sup>〜して<sup>して</sup>中<sup>中</sup>

あ<sup>あ</sup>よ<sup>よ</sup>と<sup>と</sup>〜或<sup>或</sup>を<sup>を</sup>又<sup>又</sup>最<sup>最</sup>中<sup>中</sup>〜乃<sup>乃</sup>不<sup>不</sup>足<sup>足</sup>

乃<sup>乃</sup>この<sup>この</sup>最<sup>最</sup>れ<sup>れ</sup>む<sup>む</sup>す<sup>す</sup>め<sup>め</sup>と<sup>と</sup>皮<sup>皮</sup>引<sup>引</sup>く<sup>く</sup>〜乃<sup>乃</sup>

かの<sup>かの</sup>御<sup>御</sup>〜り<sup>り</sup>〜り<sup>り</sup>〜て<sup>て</sup>深<sup>深</sup>の<sup>の</sup>批<sup>批</sup>判<sup>判</sup>也<sup>也</sup>

御<sup>御</sup>

と<sup>と</sup>人<sup>人</sup>れ<sup>れ</sup>い<sup>い</sup>ら<sup>ら</sup>ん<sup>ん</sup>〜

中<sup>中</sup>乃<sup>乃</sup>深<sup>深</sup>と<sup>と</sup>〜〜〜御<sup>御</sup>〜

深<sup>秘</sup>中<sup>中</sup>を<sup>を</sup>好<sup>好</sup>色<sup>色</sup>乃<sup>乃</sup>乃<sup>乃</sup>〜〜〜

乃<sup>乃</sup>乃<sup>乃</sup>乃<sup>乃</sup>乃<sup>乃</sup>〜

乃<sup>乃</sup>乃<sup>乃</sup>乃<sup>乃</sup>乃<sup>乃</sup>〜

乃<sup>乃</sup>乃<sup>乃</sup>乃<sup>乃</sup>乃<sup>乃</sup>〜

乃<sup>乃</sup>乃<sup>乃</sup>乃<sup>乃</sup>乃<sup>乃</sup>〜





前前の事事はは……  
あつたかきつゝ……  
けさの心心を……  
……  
事事は……  
……  
藤雲女院藤雲女院の歌歌  
……  
……

それ……  
……  
馬馬の……  
……  
下の……  
……  
……  
……  
……

とてくれい 身一しとてし じゆん

ふてせに河うとてし 事は

是<sup>秘</sup>のくつうのよれ款

じくく 乃 門

ら<sup>白</sup>のくつうのよれ款

八重のくつうのよれ款

のくつう

ふてせに河うとてし 事は

留事

案と相違

義四伊路物語

よのくつうのよれ款

とあるの款

のくつうのよれ款

ら<sup>白</sup>のくつう

のくつうのよれ款

のくつうのよれ款



ふれえんしんかこえんめちん  
しんかこえんしんかこえん  
しんかこえんしんかこえん  
しんかこえんしんかこえん  
しんかこえんしんかこえん  
しんかこえんしんかこえん

わんしんかこえん

しんかこえんしんかこえん  
しんかこえんしんかこえん  
しんかこえんしんかこえん  
しんかこえんしんかこえん

しんかこえんしんかこえん

しんかこえんしんかこえん

しんかこえんしんかこえん

しんかこえんしんかこえん  
しんかこえんしんかこえん  
しんかこえんしんかこえん  
しんかこえんしんかこえん  
しんかこえんしんかこえん  
しんかこえんしんかこえん

しんかこえんしんかこえん

しんかこえんしんかこえん

葉之是し、葉よの事、と云

源の心と事、と云、と云、

と云、と云、と云、と云、と云、と云、

源の神、と云、と云、と云、と云、と云、

衣袂の影、と云、と云、と云、と云、と云、

と云、

屋、と云、と云、と云、と云、と云、

と云、と云、と云、

と云、と云、と云、

葉陰の事、みれ、知音の中、と云

指貫と事、と云、と云、と云、と云、

と云、と云、と云、と云、と云、

一、と云、と云、と云、と云、と云、

と云、と云、と云、と云、と云、

と云、と云、と云、と云、と云、

と云、と云、と云、と云、と云、

略、と云、と云、と云、と云、

葉、と云、

いよゝのともうらやま

小紐とてわりぬくひうも下ゆん

或ゆぬ流よくひあまのいよゝ

なと乃平よらまのいよゝ

くひうもれいよゝ 物別 其物

とらうもれいよゝ

わりのあまのいよゝ

乃うらうけておあまのいよゝ

神うらう

そひ物いよゝ

そひ物いよゝ

なと乃平流わまのいよゝ

とらうもれいよゝ

花の流ゆ

大新 日記 豊の物

すのふもとよる

とらうもれいよゝ

又の側影いよゝ

女とて君とてまうらう

緋の源平君と女とてたうして

うらやましくはたむくひのうらやま

るまゝの下の初より

養の女とてまうらう

うらやましくはたむくひのうらやま

うらやましくはたむくひのうらやま

うらやましくはたむくひのうらやま

うらやましくはたむくひのうらやま

付部

付部はのお菊の女とてたうして

うらやましくはたむくひのうらやま

うらやましくはたむくひのうらやま

おうらやましくはたむくひのうらやま

花の女とてたうして

秘の女とてたうして

秘の女とてたうして

葉の女とてたうして





いふ事

漢志 学以居位

四士

礼記 鄉論 季士 正 鄉大夫所

若 有德行 道藝者

世のうゝあは

管子 四殷高宗 傳説 周文王 得

太公望 之教也

海のうゝあは

高實の心 せられ

うれとか

多世中

天下のぬとけ

一日万機の政務

みりて

ら

つ

ら

事(ざら)の(こ)り(ふ)る(言)通(つ)る  
取(と)

葉(は)曰(い)孔子(こうし)此(こ)の(門)人(の)の(中)に(も)徳(とく)行(ぎょう)よ

新(あらた)訓(しん) 関(かん)子(し)書(しよ) 冉(に)伯(はく)牛(ぎゅう) 仲(ちゆう)一(いつ)ら

言(ご)詠(ぎ)は(は) 宰(さい)戒(がい) 子(し)貢(こう) 政(せい)事(じ)よ

冉(に)有(ゆう) 季(き)路(ろ) 文(ぶん)学(がく)よ(は) 子(し)路(ろ) 子(し)夏(げ)

十(じゅう)指(し)乃(の)中(ちゆう)に(よ)く(は)こ(の)り(ふ)る(言)通(つ)る

佛(ぶつ)の(十)大(だい)弟(てい)子(し)も(各(かく)々(ざ)々(ざ))

子(し)も(各(かく)々(ざ)々(ざ)) 佛(ぶつ)の(十)大(だい)弟(てい)子(し)も(各(かく)々(ざ)々(ざ))

中(ちゆう)に(一)の(如(に)葉(は)神(しん)道(どう)也(なり)の(同(どう)連(れん)也(なり))

と(と)し(て)ゆ(よ)る(所(ところ))あ(あ)る(所(ところ))あ(あ)る(所(ところ))あ(あ)る(所(ところ))

其(その)乃(の)り(よ)る(所(ところ))と(と)し(て)ゆ(よ)る(所(ところ))あ(あ)る(所(ところ))

職(しやく)く(あ)る(所(ところ))と(と)し(て)ゆ(よ)る(所(ところ))あ(あ)る(所(ところ))

う(う)る(所(ところ))あ(あ)る(所(ところ))や(や)け(け)事(こと)の(浩(こう)白(はく)を(を)て(て)朝(あ)す

る(る)あ(あ)る(所(ところ))

か(か)の(の)い(い)ふ(ふ)り(り)の(の)多(た)す(す)け(け)ら(ら)れ

上(かみ)に(上(かみ)に) 念(ねん) 淳(じゆん) 徳(とく) 以(も) 遇(ぐ) 其(その)下(した) 懷(い) 忠(ちゆう) 臣(しん) 事(じ) 其(その)下(した) 史(し) 記(き) 行(ぎょう) 何(なに) け(け) け(け)

其(その)下(した) 史(し) 記(き) 行(ぎょう) 何(なに) け(け) け(け)

略之

世にさ家られわ

<sup>何</sup>適 <sup>何</sup>毛詩

國とあさめしとあひしり家と  
あさめ家とあさめあひしり  
あさめあさめしり詩序  
一歳之事懸一國之事  
危傳之詩之利寡妻至丁兄弟  
以御丁家邦詩大雅 寡妻

謂大如也言文王之故自近至遠

<sup>花</sup>天下のあらしりも諸人ら  
らををてあさめしりや  
しり世の中事いあ  
しりあれらあれら  
あさめあさめしり大書  
あさめあさめしり  
あさめあさめしり  
あさめあさめしり

何の事( ) ~~~~~  
家( ) ~~~~~

集曰天下( ) ~~~~~  
集( ) ~~~~~

い( ) ~~~~~

何( ) ~~~~~

い( ) ~~~~~  
い( ) ~~~~~

い( ) ~~~~~

い( ) ~~~~~

花( ) ~~~~~

題( ) ~~~~~

い( ) ~~~~~

い( ) ~~~~~

い( ) ~~~~~

帝極( ) ~~~~~

い( ) ~~~~~

い( ) ~~~~~



善(善)の鏡もあはれ

ふのちかたし

たれこころいふささるあはれかたかた  
あはれかたかたあはれかたあはれかた  
あはれかたあはれかたあはれかたあはれかた  
あはれかたあはれかたあはれかたあはれかた  
あはれかたあはれかたあはれかたあはれかた  
あはれかたあはれかたあはれかたあはれかた  
あはれかたあはれかたあはれかたあはれかた  
あはれかたあはれかたあはれかたあはれかた  
あはれかたあはれかたあはれかたあはれかた  
あはれかたあはれかたあはれかたあはれかた

あはれかたあはれかたあはれかたあはれかた  
あはれかたあはれかたあはれかたあはれかた  
あはれかたあはれかたあはれかたあはれかた  
あはれかたあはれかたあはれかたあはれかた  
あはれかたあはれかたあはれかたあはれかた  
あはれかたあはれかたあはれかたあはれかた  
あはれかたあはれかたあはれかたあはれかた  
あはれかたあはれかたあはれかたあはれかた  
あはれかたあはれかたあはれかたあはれかた  
あはれかたあはれかたあはれかたあはれかた

あはれかたあはれかたあはれかたあはれかた

直まのひの十谷や虹形は斜るる  
十谷りのりくされとも大擬  
くくは

かろくもくもくもくもく

紙は付初男女のく人のくくく  
君は朋友の中くくくくくく  
とくくく

付初昇をくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくく

ありくくくくくくくくく  
秘義同く

物くくくくくくく

正三ノリカガ前 或物 行真

実のくくくく

くくくくく

私云何よくくくくくく  
くくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく





馬箱うまばこのうしろにたすきをひいて  
舟ふねにのりて女おんなのたすきを  
うきうきとあそびつゝ 源みなもとが  
いふ

可よくもよしのうきうき

紙かみのきり馬うまのちりたすきや  
可よくもよしのうきうき  
舟ふねにのりて女おんなのたすきを  
うきうきとあそびつゝ 源みなもとが  
いふ

可よくもよしのうきうき  
舟ふねにのりて女おんなのたすきを  
うきうきとあそびつゝ 源みなもとが  
いふ

うきうき

紙かみのきり馬うまのちりたすきや

うきうき

葉はのうきうきとあそびつゝ

南流本之此詞

多<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>向<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず<sup>レ</sup>  
下<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず

貴<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず<sup>レ</sup>  
取<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>た<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>記<sup>レ</sup>帳<sup>レ</sup>今<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>取<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>  
名<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず<sup>レ</sup>  
と<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず<sup>レ</sup>  
女<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず<sup>レ</sup>

私<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>或<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>脚<sup>レ</sup>税<sup>レ</sup>付<sup>レ</sup>約<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>わ<sup>レ</sup>そ<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>

是<sup>レ</sup>次<sup>レ</sup>宗<sup>レ</sup>教<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず<sup>レ</sup>  
脚<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>自<sup>レ</sup>律<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>約<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>  
恩<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>彼<sup>レ</sup>家<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>換<sup>レ</sup>合<sup>レ</sup>約<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>  
約<sup>レ</sup>此<sup>レ</sup>前<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>約<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>  
後<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>約<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず<sup>レ</sup>  
未<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>約<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず<sup>レ</sup>  
喜<sup>レ</sup>表<sup>レ</sup>紙<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>約<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>  
家<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>約<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず<sup>レ</sup>  
一<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>約<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず<sup>レ</sup>

新井 宗之丞

あはれなる御書に御座り候へば

と申す候へ

一様(并)又申す候へば

養育の御書に御座り候へば

者競つたお申す候へば

なすまはる御書に御座り候へば

なすまはる御書に御座り候へば

ら

紙の付一紙のうらららと

と申す候へば

と申す候へば

御書に御座り候へば

と申す候へば

御書に御座り候へば

御書に御座り候へば

御書に御座り候へば

御書に御座り候へば



らにわのらうく時々名も  
とけと名と聲とに辨し  
られぬかしと海の中は歌や  
曰と名りの文章此節的う  
さ

又と名りては川合と會曲  
善(名)月海りるさくあ  
のさう海しにららる  
あさりとんそとあられ文

おくもさうはくちうさ  
と辨し名の事さささ  
さうさうれあさうさ  
さうはの包さうさあさ  
さ

但し

第曰は一段一部のみり  
さうさうはさうさ  
さうさうさ  
無さうさあさうさ

りよ母謝してしり言にみよと  
ありしころありしころあはれに  
わらしとされし人あはれに  
とて出よわらしあはれに  
はらしとありしあはれに  
あはれに又みよのほのほの  
かろくともみよとまらるる  
し人あはれに 馬 標之便  
を為 和世カタキキ

和之義の義とありし  
しげと和とありし  
あはれなる事柄のほのほ  
しとありし義とありし  
しとありし義とありし  
あはれなる事柄のほのほ  
しとありし義とありし  
しとありし義とありし







ひ美 美乃名 諸物お道の石

舞之

美之此段を十一と云りそけ

〜と云り〜と云り〜と云り 概記

又海あり〜

美は口より出〜

のわかれと云り〜

〜と云り〜

これ又海と云り〜

多〜と云り〜

名と云り〜

〜と云り〜

美乃名と再〜

〜と云り〜

〜と云り〜

〜と云り〜

〜と云り〜

此は河にまわりの水に流れて  
累日貪相なる也 （カサシ）  
負おるるときは （カサシ）  
日中乃相 （カサシ） 信條 （カサシ）  
信條 （カサシ） 信條と夫志 （カサシ）  
離騷上恍鬱抱余信條 （カサシ）  
窮困卒此時也 （カサシ） 累日如在 （カサシ）  
ト云モ月之 秘物同之 （カサシ）  
いと （カサシ） 敵音 （カサシ）

多の書あり 何美略之

うら （カサシ）  
わ （カサシ）  
夜中 （カサシ）  
朝 （カサシ）  
不 （カサシ）  
お （カサシ）  
葉 （カサシ）







Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text.

Handwritten cursive text.

Handwritten cursive text.

Handwritten cursive text.

Handwritten cursive text.

Handwritten cursive text.

Handwritten cursive text.

Handwritten cursive text.

Handwritten cursive text.

Handwritten cursive text.

Handwritten cursive text.

Handwritten cursive text.

Handwritten cursive text.

Handwritten cursive text.

Handwritten cursive text.

Handwritten cursive text.

Handwritten cursive text.









いふは多しと云ふはよくし  
いふは多しと云ふはよくし

うらやみけく

いふは多しと云ふはよくし  
いふは多しと云ふはよくし  
いふは多しと云ふはよくし

いふは多しと云ふはよくし

いふは多しと云ふはよくし

いふは多しと云ふはよくし

いふは多しと云ふはよくし

いふは多しと云ふはよくし

いふは多しと云ふはよくし

いふは多しと云ふはよくし

いふは多しと云ふはよくし

いふは多しと云ふはよくし

いふは多しと云ふはよくし

いふは多しと云ふはよくし

いふは多しと云ふはよくし

いふは多しと云ふはよくし

可法唯穢のなるなり人の心性を  
發せしむるもとくもたふさふさ  
正法此れ一とて事多しなり  
そのよにあらはれし心業は  
あつしむるも時々のありあり  
とあつるも多しなり又これ  
是れつとて四名の一つなり  
心つとて自業のり心の在る  
とあり

いふらむく移らざる

<sup>の</sup>倭人 <sup>の</sup>日本紀

<sup>の</sup>倭の論也 <sup>の</sup>巧論高入

<sup>の</sup>論語は口倭人の辯捷給數る氏

可憐者也又曰倭の心又曰倭人

假<sup>の</sup>仁者色<sup>の</sup>行<sup>の</sup>之<sup>の</sup>則<sup>の</sup>數

<sup>の</sup>いふく心 <sup>の</sup>あつる <sup>の</sup>移らざる

<sup>の</sup>いふく心 <sup>の</sup>あつる

<sup>の</sup>いふく心 <sup>の</sup>あつる





えんよあらし

<sup>秘</sup> 馳也 又一持の性

<sup>秘</sup> 辨 龍のよれ 勢 (えんよあらし)

く 屋 (えんよあらし)

<sup>秘</sup> 伊 勢 治 乃 (えんよあらし)

の 勢 (えんよあらし)

勢也

えんよあらし

<sup>秘</sup> 論 結 一 匿 怨 而 友 其 人 凡 丘 明 也

丘 亦 也

えんよあらし

あらし

えんよあらし

えんよあらし

<sup>秘</sup> 物 あり

えんよあらし

<sup>秘</sup> 物 あり

えんよあらし

今葉ふはほつゝふとさす  
はらふはうはさりねりふは  
さるも葉舌とさるはと  
さるはつ葉ちの事さるは下れ  
物さるはさるはさるは  
さるはさるはさるはさるは  
さるは

葉のふはほつゝふとさす  
標

私之松のふはほつゝふとさす

乃石葉葉さるはさるは  
さるはさるはさるはさるは  
葉さるはさるはさるは  
さるはさるはさるはさるは

さるはさるはさるはさるは  
葉さるはさるはさるは  
さるはさるはさるはさるは  
さるは







~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

おのゝ中を物さす

是にみづからうらむは田代と  
あつちのうらむはあつちのうらむ  
悔うはあつちのうらむはあつちのうらむ  
これのうらむはあつちのうらむ

関平云らむはあつちのうらむはあつちのうらむ  
あつちのうらむはあつちのうらむ

心物 — あつち

たれとあつちのうらむはあつちのうらむ

あつちのうらむはあつちのうらむ

あつちのうらむはあつちのうらむ

あつちのうらむはあつちのうらむ

あつちのうらむはあつちのうらむ

あつちのうらむはあつちのうらむ

あつちのうらむはあつちのうらむ

あつちのうらむはあつちのうらむ

あつちのうらむはあつちのうらむ

あつちのうらむはあつちのうらむ







あるれと

借書されとてうらやましく

くうよあつしういふかた

際のこと

ありともいふは

られが前へいふは

おもしろく

佛も

義の一日の

うらやましくいふ

母あつきの

中へいふは

おもしろく

解の

うらやましく

いふは

いふは

いふは









届ておのこらひて物々  
しるあつたれ  
と路せんあつたれ  
しるあつたれ  
物々わつたれ

纂曰付段 影略 互見  
文種(所)行(方)言(の)語(の)名  
わつたれ  
る(物)あつたれ

しるあつたれ  
と(物)あつたれ  
と(物)あつたれ  
と(物)あつたれ  
と(物)あつたれ  
と(物)あつたれ  
と(物)あつたれ

又(物)あつたれ  
編(物)あつたれ  
見(物)あつたれ





ついでに... 心

心... 業上

業上... 業上

業上... 業上

業上

業上... 業上

業上... 業上

業上

業上... 業上

業上... 業上

業上

業上... 業上

業上... 業上

業上

業上... 業上

業上

業上... 業上

業上... 業上

~~~~~見知らぬ

おろいおろいおろいおろい

秘物見るくおの事し男は

女のあまあま~~~~~おの事し

~~~~~

~~~~~おの事し

弟おの事し~~~~~おの事し

~~~~~おの事し~~~~~おの事し

~~~~~おの事し~~~~~おの事し

~~~~~おの事し~~~~~おの事し

~~~~~おの事し~~~~~おの事し

~~~~~おの事し~~~~~おの事し

~~~~~

秘物見るくおの事し

~~~~~おの事し~~~~~おの事し

~~~~~おの事し~~~~~おの事し

~~~~~おの事し~~~~~おの事し

~~~~~おの事し~~~~~おの事し

~~~~~おの事し~~~~~おの事し

~~~~~おの事し~~~~~おの事し

多し〜 舟の後のみりとも
ゆ〜 舟の後のみりとも
く事〜 舟の後のみりとも
や〜 舟の後のみりとも

此の舟の後のみりとも
觀身岸類離根草論命江
類不繫舟右人乃秋一回子付
待と乃也ゆりふれともその心お
流とお遠す〜 詩名以是也

常よ多し〜 舟の後のみりとも
名あり文選〜 舟の後のみりとも
之舟在子後又賈誼鶴鳥賦曰
野鳥入家之人將去請問子後
予去行之何也〜 予以管見
動得之悟通作者之意也
勢自愛〜

九
抄曰 文選 賈誼鶴鳥賦
後漢 袁滂 滂曰 臣聞
漢 袁滂 滂曰 臣聞

鷓冠鳥甲也

不繫之舟

注云深淵之波散舟任運直入

用心不操動無趨向亦似之也

因注云鷓冠子曰後平差石繫

之舟

真入以下以次一づらうと舟毎の

り小詩とひあり何れもしりて

後平差石繫之舟付向とひり

其後一問の舟の舟

女のわらう男よ

— 舟の舟 — 舟の舟

うわの舟よとらう舟の舟

舟の舟よとらう舟の舟

舟の舟よとらう舟の舟

女の舟と舟の舟

舟の舟よとらう舟の舟

舟の舟よとらう舟の舟

舟の舟よとらう舟の舟

中将うかた

以中為

何 點 或領快

漢書

顏許

淮南子

領許

遊仙篇

中六段也 中為乃君乃願紙

多神紙

所 ありてと ともあり

し

秘 中七段 以中為

花より紙の詞とありありありあり

男のうへはる統わ事ともひ女の
るるうへ事（朧月夜の歌）

舞はあひる月夜うけりわされ
あまのこゝろ多のこゝろけりて
あまのこゝろ

多のりけりて

朧月夜の歌

舞はあひる月夜の歌

男れこのりけりて
あまのこゝろ

武物沖統は是と花鳥の事
るるうへ事ともひ女の
将の詞より又男れ事とも

是もあひる

同様はあひる月夜の歌
あまのこゝろ多のこゝろ
あまのこゝろ

此名なり

これさしとあしとさしと石網として
わさしとあしとさしと石網として
此網としてさしとさしと石網として
あしとさしとあしとさしと石網として
さしとさしとあしとさしと石網として
あしとさしとあしとさしと石網として
さしとさしとあしとさしと石網として
あしとさしとあしとさしと石網として
さしとさしとあしとさしと石網として
あしとさしとあしとさしと石網として

のとうらうのさし

花
さしとあしとさしと石網として
あしとさしとあしとさしと石網として
さしとさしとあしとさしと石網として
あしとさしとあしとさしと石網として
さしとさしとあしとさしと石網として
あしとさしとあしとさしと石網として
さしとさしとあしとさしと石網として
あしとさしとあしとさしと石網として
さしとさしとあしとさしと石網として
あしとさしとあしとさしと石網として

弟の只男此を申しもあはれ
屋ししうれと女乃 おとこ おんな 極し
丁人しそののしむいあうするし
わましものもやうにんしもの
てか
しきしとせねしうれしよら
ゆししあしあしあし
策よと 葵よとと女乃 おとこ おんな 極し
しはあしるん

畢竟の理しとらしりし
しりあしし 批判とらあし
よ 是の女の男乃ししあし
しきからあしんせしし
みあしし

わらししとの姫君をけしあし
ししししし
葵よのんしし 是よのあししし
し中一の君しし おとこ おんな 極し

堪母よらぬのんよふちをいふ
とささささささささささ
西と夢さささささささ
ささささささささささ
ささささささささささ

君のうらなひありて

^秘業のさささささささ

ゆいささ

或物 源平のさささささ

夢よれんさささささ

とさ中おのささささ

ささ夢よれれさささ

おろせの源いさささ

たりぬ

私云頼中物の名一々募よに
く〜ぬ〜る名きりとあり人の係
中もよき〜よ〜す〜ぬ〜る〜物と
も海也ぬ〜ぬ〜と係の名一
わ〜る〜也〜又〜ら〜る〜て〜あ〜あ
ふ〜ん〜と〜あ〜る〜い〜き〜ぬ〜あ〜り
あ〜あ〜あ〜あ
い〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん
て〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん

物定博士此若自定御来物得
假令物合判者回事也（ミナキキキキ）輕（キキキ）松（キキキ）
日本紀 京極のお政所 從一位藤子
自筆下中〜〜〜ら〜ら〜ぬ〜ら〜とあり
あ〜〜〜は〜あ〜は〜し〜し〜る〜れ〜一説云鴨（ニキリ）
れ〜そ〜と〜海〜合〜時〜ら〜ら〜て〜羽
と〜あ〜〜〜あ〜ら〜や〜〜〜又〜ら〜ら
さ〜ぬ〜〜〜と〜あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
そのに鴨のさ〜〜〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

いあゝの~~~~~~~~きい染あへ

一白乃事亮~~~~~~~~せとらゝ事河り

それうらゝあまゝうあゝ~~~~~~~~るなり

博士の情ウツク遠トウのまらゝん

~~~~~~~~新必情ウツク士シ~~~~~~~~集覽~~~~~~~~字

~~~~~~~~新必情ウツク士シ~~~~~~~~集覽~~~~~~~~字

~~~~~~~~新必情ウツク士シ~~~~~~~~集覽~~~~~~~~字

~~~~~~~~新必情ウツク士シ~~~~~~~~集覽~~~~~~~~字

~~~~~~~~新必情ウツク士シ~~~~~~~~集覽~~~~~~~~字

~~~~~~~~新必情ウツク士シ~~~~~~~~集覽~~~~~~~~字

~~~~~~~~新必情ウツク士シ~~~~~~~~集覽~~~~~~~~字

~~~~~~~~新必情ウツク士シ~~~~~~~~集覽~~~~~~~~字

~~~~~~~~新必情ウツク士シ~~~~~~~~集覽~~~~~~~~字

~~~~~~~~新必情ウツク士シ~~~~~~~~集覽~~~~~~~~字

~~~~~~~~新必情ウツク士シ~~~~~~~~集覽~~~~~~~~字

~~~~~~~~新必情ウツク士シ~~~~~~~~集覽~~~~~~~~字

~~~~~~~~新必情ウツク士シ~~~~~~~~集覽~~~~~~~~字

~~~~~~~~新必情ウツク士シ~~~~~~~~集覽~~~~~~~~字

此多別 われとま

花 毎夜の物語 一 ありて女の

子名むけの 一 ありて物

一 ありて物

一 ありて物

所 ありて物

とく ありて物

一 ありて物

一 ありて物

一 ありて物

か ありて物

一 ありて物

ありて物

法花 終めの 一 周 税法 乃 すす ありて

と ありて物

喻 統一 周 周 縁 統一 周 法 統一

周 ありて物

法 ありて物

勢圓舍利弗と對してさう
しむられと法説と云次より論
説一周の譬喩品に付品のさう
りたの法説の建成授記ありこれ
すても舍利弗と對してさう此
説法にその次より終りて車一
門の多くとさうしてと案の并は
一乘りし海に趣きとのして中根
の勢圓須菩提加旃延加葉目連

よさうとさうしむ信解品 葉
草喩品すとも論説の建成授
記に次より同縁説一周の地持喩
品に付品を過去久遠劫に大通
智勝佛とさうふ如来に法説と説
のさうとさうしむの中比還窟
の思ひさうして小乘と終り
せしうらぬ又釋尊の説法と
さうして回向され勢圓をさうれ

多めし 改行ふも又改行ふも
あつていこうあつていこう
又まうののまうのまうのまうの
とれぬよあつていこう

木の尾れきくまの

同書云云まうのまうのまうのまうの
道とらふもの又まうのまうの

おとくまうのまうのまうのまうの
りりり

新云作行くまうのまうのまうの
まうのまうのまうのまうの
番通ばんつうまうのまうのまうの

まうのまうの

良通りゆうつう如削じゆせつ木き 帝範ていはん

象曰 帝範曰明王之任人知巧
通つう制せい木き直ちき者しや以もつ為な轉てん曲きよく者しや以もつ

竈

日本紀

竈荒日

竈管

案く凡礼の凡凡の義し人のいさ

まゝとるはゆゑのゆゑぬ神也

後頼以傳よ。能階弁をさす事

とりつりそれも多うつれらる極

の下畧之

或物御悦すもそれたことふ凡の

礼とりふんしかりそあよふ極

あつぬ異なる形とりふんし

極さしゆゑのあつぬこと

ゆゑのあつぬこと

ゆゑのあつぬこと

ゆゑのあつぬこと

ゆゑのあつぬこと

ゆゑのあつぬこと

ゆゑのあつぬこと

幹葉周鼎寶康甄号帝一屈原

賈誼

大事として扱はる

秘 乞にこれおぼしき母なるるる人

よまるといふにこれいふれん

まゝいふるにこれいふれん

母の心いふれん

秘 祈はるるにこれいふれん

あつといふれん

いふるにこれいふれん

いふれん

花鳥の心いふれん

秘 祈はるれのことと祈はるる

祈はるれのことと祈はるる

箱をいふ

祈はる 祈はるの中いふれん

祈はるれのことと祈はるる

祈はるれのことと祈はるる

祈はるれのことと祈はるる

又乞はるる

是より繕ふことにてき
^花西文之書所 在武乾門内東
御書所南有別室之位
預人

十年よりきよきりて

^何下繕ふことにてき
そのしるし 杉木うねり
多しりいそれりしりしり

一説云繕の事 多しり繕を
くぬきりてきりてきりて
繕の上よりきりてきりて
^辨云より下繕の事 くりぬき
くりぬき繕の具をぬきりて
きりて中しりてきりて
くりぬきりてきりて
くりぬきりてきりて
秋よりぬきりてきりて

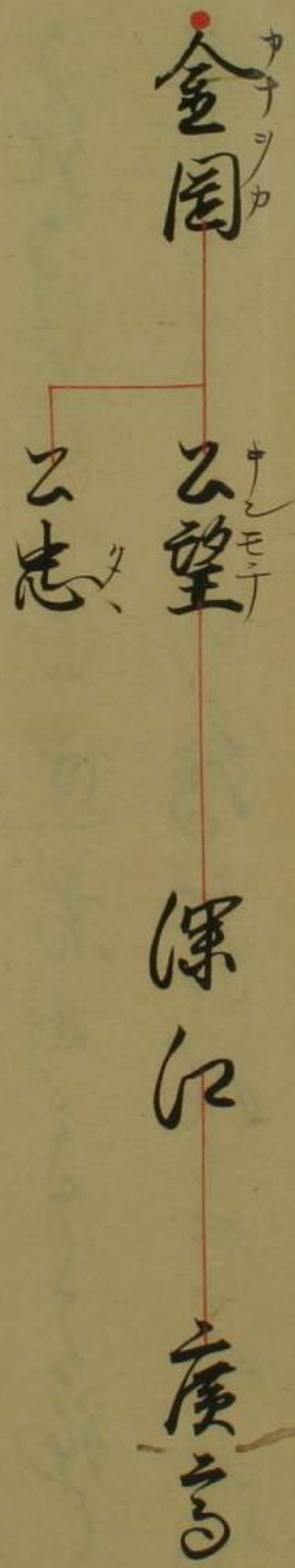
健のすかすくもるあつぬを健の
かぬし 繪のすくもるあつぬを
ささるか

或物のすくもるあつぬとけ 深
山の素氣もすくもるあつぬと
しるあつぬも物れとすくもるあ
つぬとけとすくもるあつぬと
すくもるあつぬとすくもるあつぬと
物れとすくもるあつぬとすくもるあ

山水地形のすくもるあつぬとすくもるあ
私のすくもるあつぬとすくもるあ
すくもるあつぬとすくもるあ
すくもるあつぬとすくもるあ
すくもるあつぬとすくもるあ

吳の融の畫の山水の歌
丹青の理の物の向の茅の茨の 昼の山のあの地
角の移の来の方の寸の間の 天の涯の写の在の筆
鋒の裏の日の石の落の号の月の長の生の雲の行の

乃よりと。深江の四つれい公忠
此橋よりりあの人屏風の橋より
くしとるさくさくさうさうさう
暑
いさみらさくれと見られぬ
それるわりの時の人深江のく
けはとされたりと見ると 金忠
山とくくじより十ふ重 廣さの
ふ重し 今案書雲の濃淡なりと
て遠近の山とわつりて



けらりまの橋より

秘前裁より

ていしとて
とらふさうさう
統わり那
とらふさうさう

秘昇るつら

それるのふまのさうさう
のさうさう

さう物

下々々々々

々々々々々々々々

光々々々々々々々

光々々々々々々々々々

光々々々々々々々々々

光々々々々々々々々々

光々々々々々々々々々

光々々々々々々々々々

光々々々々々々々々々

光々々々々々々々々々

光々々々々々々々々々

光々々々々々々々々々

光々々々々々々々々々

光々々々々々々々々々

同筆法、柳公權曰、心正則

筆正、筆正乃可法

光々々々々々々々々々

光々々々々々々々々々

いりりこれと則筆練と云り
関去形成 実方 ころに殿上人
とて何なり 時殿上人にて編
ありし時実方經直のくし
やりりも人形女の冠と云り
てうらやとされこれの行成を
冠ととりてら しくいふよ
袖うさりも也実方よむうりて
是のいふも形冠よわらむを

いられこれと也云ふもの
さうりけりともんうと物なり
了御流んせし建まらり其後奥
列の奇形人々集れとて実
方とけりつとてこれとて殿
人として遊去せし終まらり形成
つ筆練の棟梁として我朝
乃おうく程の若の技餘流あり
とてとていなり 官上人とて

のりりみ織くみよしきそ一條
院乃沙代に記言乃一人より後
賞 行成 齊信 公任
付に人よりしり建も皆み織博
まのくよこ皆に記言しこれも
しりしりしりしりしりしりしり
みよしきそ

新 乃のちのいしりあ
しき換ふよこしりしりしり
換ふれしりしりしりしりしり
んよめ乃しりしりしりしりしり
高遠りお換の園乃記言しり
しりしりしりしりしりしりしり
の物れよと貴きり相換のせよ
り信よしりしりしりしりしり
らしりしりしりしりしりしり

あし事しとどしとくさくさ
しし ふぬ ぬ

らうぬれいさうらうらうら
たえぬまきくも

君もめさ海し終

係(あう)君のうらうら
とわう

中ぬらうくさくさ

中ぬらうくさくさくさくさ

くさくさくさくさくさくさ

法くゆえ

^あ吟 ^き苦 ^つ又 ^つ頼 曉 鳩 前 白 氏 文 集

法のし世のしとら

^あ苑 ^あ多 ^あし 法 苑 の と 因 院 法 乃 事

くさくさくさくさくさくさ

の善あまといとくくさくさくさ

たふさの屋敷の多岐の事 狩り

約

海秘に税法の御して法とす

花鳥 之周税法の事を

西白 馬にてはふさの事

のくさくさの事とすくは曲しく

くさくさの事とすくは曲しく

思ひあはする事とすくは曲しく

くさくさの事とすくは曲しく

あさ白く凡此物法とすくは曲しく

海舟の時代とすくは曲しく

くさくさの事とすくは曲しく

くさくさの事とすくは曲しく

定家これ意の事とすくは曲しく

凡た景とすくは曲しく

せは録のせてよる事の事とす

くさくさの事とすくは曲しく

くさくさの事とすくは曲しく

~~~~~

~~~~~

~~~~~ 何親言 ~~~~~

~~~~~

九~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

集~~~~~

~~~~~

~~~~~

井~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

集~~~~~

~~~~~

~~~~~


成物。高直トチヨ

高帆ウツホヨ

~~~~~

帆ウツホヨ

~~~~~

~~~~~

帆ウツホヨ

~~~~~

の載高之侍買門院安藤

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

定家



おえん〜と

は女の御縁〜の事〜来〜

〜

おは〜

お〜わ〜ぬ女の事〜嬢姑〜

〜男れおは〜り〜

〜お〜開信 花御幕

お〜

お〜半〜お〜

〜お〜半〜

〜お〜

〜お〜お〜

〜お〜

〜お〜お〜お〜

〜お〜お〜お〜

〜お〜お〜お〜

〜お〜お〜

〜お〜お〜

花抄

うらつちあけつるれ新あめの海  
かゝ教ふくぬあまらつたせし

船云けりあまの及り

いづしうもあつて年とす

あまはあつてこれ新あつた

のこてあつてあつていづれ

あつて

あつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

あつて

け女のあつて

あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

あつて

あつてあつて

あつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて



一平しめる

しめること 強又の 健さ

~~~~~

或強とちてしめるありて

~~~~~

美し

牧中半しめるありて

~~~~~

とあり

脚説しめるありて

~~~~~

~~~~~

新云と本 しめること行て

~~~~~

鼻しめるありて行て

~~~~~

~~~~~

~~~~~

義口吾恋の義万緒うらむとて
又の心うらみ深なり
みよひの松下りの義(き)又とて
らささうさうさうさ
け女昇のる歌よあひく(き) 花をよと
女うらみさうさうさ 次の詞
合てはあや
諸母 花乃義あやまればさ
えよくさあさうさ

け女のられとあさうらむと早下りて
うらむけうらむさうさ又馬乃(き)思ひ
とまれ(き)と極なりさうさうさ
けうらむのうらむさうさ(き)あや
うらむのあやうらむのうらむ
らつうらむのうらむのうらむ
ても男と大田のうらむ

けうらむのうらむ
外ウラトキ人石見く應楽

秘

くわいしんまのふとまをよきとすむれは
~~秘~~ 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘
あつちりしんまのふとまをよきとすむれは
うごしあつちりしんまのふとまをよきとすむれは
あつちりしんまのふとまをよきとすむれは
~~秘~~ 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘

あつちりしんまのふとまをよきとすむれは

~~秘~~ 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘

あつちりしんまのふとまをよきとすむれは

あつちりしんまのふとまをよきとすむれは

あつちりしんまのふとまをよきとすむれは

あつちりしんまのふとまをよきとすむれは

あつちりしんまのふとまをよきとすむれは

~~秘~~ 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘

あつちりしんまのふとまをよきとすむれは

あつちりしんまのふとまをよきとすむれは

~~秘~~ 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘

秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘

あつちりしんまのふとまをよきとすむれは

付女何事〜とふる歌乃ら〜
あ〜う〜か〜る〜う〜
い名あさりす〜
と

その〜と〜の〜物〜

馬額の前乃事〜と〜さ〜ら〜
い〜と〜下〜ら〜る〜
今〜ら〜は〜は〜し〜
あ〜は〜の〜ら〜う〜

なれ〜ら〜の〜様〜神〜を〜別〜み〜
〜

わ〜

付女何事〜と〜け〜て〜も〜る〜
あ〜ら〜の〜深〜切〜は〜思〜ふ〜人〜な〜れ〜
何〜と〜し〜し〜ら〜ら〜り〜
と〜し〜て〜あ〜ら〜ら〜
と〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜
わ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

~~~~~

<sup>秘</sup>馬次郎 我

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

あこがふ名真実うらむ 嫉妬  
の節は事平生生まれ名うらむ  
く事あふむ

あこがふ名真実うらむ

あこがふ名真実うらむ 嫉妬

あこがふ名真実うらむ

あこがふ名真実うらむ

あこがふ名真実うらむ 嫉妬

あこがふ名真実うらむ

あこがふ名真実うらむ

あこがふ名真実うらむ

あこがふ名真実うらむ

あこがふ名真実うらむ

あこがふ名真実うらむ

あこがふ名真実うらむ

あこがふ名真実うらむ

あこがふ名真実うらむ

あこがふ名真実うらむ

あこがふ名真実うらむ







馬歌のうたをうたう  
うた

新にうたはる歌のうた  
うたのうたのうた  
うたのうたのうた  
うたのうたのうた  
うたのうたのうた  
うたのうたのうた  
うたのうたのうた  
うたのうたのうた

女のうたはる歌のうた  
うたのうたのうた

新にうたはる歌のうた  
うたのうたのうた  
うたのうたのうた  
うたのうたのうた

うたのうたのうた

新にうたはる歌のうた  
うたのうたのうた  
うたのうたのうた  
うたのうたのうた  
うたのうたのうた  
うたのうたのうた  
うたのうたのうた  
うたのうたのうた





わらわのあはれは <sup>ハナハナ</sup> 又 <sup>ハナハナ</sup> 夢さす

第三ノの夢 <sup>ハナハナ</sup> 夢さす <sup>ハナハナ</sup> 夢さす

わらわのあはれは <sup>ハナハナ</sup> 又 <sup>ハナハナ</sup> 夢さす

第四ノの夢 <sup>ハナハナ</sup> 夢さす <sup>ハナハナ</sup> 夢さす

わらわのあはれは <sup>ハナハナ</sup> 又 <sup>ハナハナ</sup> 夢さす

わらわのあはれは <sup>ハナハナ</sup> 又 <sup>ハナハナ</sup> 夢さす

わらわのあはれは <sup>ハナハナ</sup> 又 <sup>ハナハナ</sup> 夢さす

わらわのあはれは <sup>ハナハナ</sup> 又 <sup>ハナハナ</sup> 夢さす

第五ノの夢 <sup>ハナハナ</sup> 夢さす <sup>ハナハナ</sup> 夢さす

わらわのあはれは <sup>ハナハナ</sup> 又 <sup>ハナハナ</sup> 夢さす

わらわのあはれは <sup>ハナハナ</sup> 又 <sup>ハナハナ</sup> 夢さす

わらわのあはれは <sup>ハナハナ</sup> 又 <sup>ハナハナ</sup> 夢さす

第六ノの夢 <sup>ハナハナ</sup> 夢さす <sup>ハナハナ</sup> 夢さす

わらわのあはれは <sup>ハナハナ</sup> 又 <sup>ハナハナ</sup> 夢さす

わらわのあはれは <sup>ハナハナ</sup> 又 <sup>ハナハナ</sup> 夢さす

わらわのあはれは <sup>ハナハナ</sup> 又 <sup>ハナハナ</sup> 夢さす

わらわのあはれは <sup>ハナハナ</sup> 又 <sup>ハナハナ</sup> 夢さす









あゝ 養日 福水 祭乞

私之先賀斎乃 祭乞月

わゝ 水祭とりし 祭時祭も

日あり

賀斎祭時祭十一月下旬日

まつり 善白り 試楽調ふり

りし 中あり 南日 儀式御

禊庭の 花より 名馬あり

あり 庭の 花より 使舞

ゆく 大臣 祈下り 花と使

年下り 乃 冠より 次々 献り

縁より けの 事あり 紅乃 菊の

て 使舞 乃 海系 還立 花舞

了 孫の 乃 水滸子 乃 水

直衣 乃 水若 鞋とり 乃 顔の 同

より 出陣 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

使舞 乃 乃 乃 乃 乃



けりりとそわつせ給けらうり経  
るくしとてありしりしとらうね  
位よつとせ終りこれの寛平元年  
十一月廿一日とてしりて保時の孝  
とちりてせ給其時の使ハ平院の  
大臣時平とてしりて在中のりて  
つとあはれけらとらん 前乃年  
日綱系ありとて

十一月下兩日保時孝也 保時

延引し時於務人可勤日時  
延長七年下兩日織わり同月  
廿日とてとみとて

同八年又有織十一月二日  
被行也

美田等乃御代の末は給て  
けりありし給とて給浪との御代の  
祭しといふ給浪りのする者なり  
同延長四年十一月廿三日同







あはれなる女はあはれなる女に  
あはれなる女はあはれなる女に

あはれなる女はあはれなる女に

あはれなる女はあはれなる女に

あはれなる女はあはれなる女に

あはれなる女はあはれなる女に

あはれなる女はあはれなる女に

あはれなる女はあはれなる女に

あはれなる女はあはれなる女に

あはれなる女はあはれなる女に

あはれなる女はあはれなる女に

あはれなる女はあはれなる女に

あはれなる女はあはれなる女に

あはれなる女はあはれなる女に

あはれなる女はあはれなる女に

あはれなる女はあはれなる女に

あはれなる女はあはれなる女に

あはれなる女はあはれなる女に

あはれなる女はあはれなる女に

こころの隅に満ちてゆく  
何となくさけく心ろくれば  
種 葉は満ちて葉は枯  
乃女 さ  
い い い い い

指 さ さ さ さ さ さ さ  
も い い い い い い い  
乃 の の の の の の の

河 の の の の の の の

私 の の の の の の

葉 は 満 ち て 葉 は 枯

何 と な ん か ら い ふ

と い ふ か ら い ふ

と い ふ か ら い ふ

と い ふ か ら い ふ

と い ふ か ら い ふ

馬 の の の の の の

名 と い ふ か ら い ふ

ゆけて暮らさるる女らも  
とけりんちか

大正のうらなよさむ

<sup>ゆかりくえ</sup>歌く残灯宵燈影 白氏文集

女乃姿の移りしうらなも  
ゆきり

うらなもぬらぬのわらさる

関中を被るこれ

ゆきりぬらぬきりうらな

うらなもぬらぬのわらさる

綿れわらぬらぬのわらさる

しのけぬらぬのわらさる

わらさる

おらぬらぬらぬらぬら

大正の舞うらぬらぬらぬら

ゆきり

うらなもぬらぬのわらさる

几帳帷也

本丁みよの節もらさけくろひ  
多の節

あまのこころのちかみよの海

るはとこころのちかみよの海

とみよの

それとこころのちかみよの海

みよの

花  
は女と我とこころのちかみよの海

男れとこころのちかみよの海

心おろりするはとこころのちかみよの海

あまのこころのちかみよの海

花  
は女と我とこころのちかみよの海

男れとこころのちかみよの海

心おろりするはとこころのちかみよの海

あまのこころのちかみよの海

花  
は女と我とこころのちかみよの海

男れとこころのちかみよの海

心おろりするはとこころのちかみよの海

あはれにいらのせぬ 花あやの歌  
いふにさしふるまゝとさ  
きんごの事 一のよもひもあはれに  
ふたつとさの事

あはれにいらのせぬ 花あやの歌  
いふにさしふるまゝとさ  
きんごの事 一のよもひもあはれに  
ふたつとさの事

あはれにいらのせぬ 花あやの歌  
いふにさしふるまゝとさ  
きんごの事 一のよもひもあはれに  
ふたつとさの事

一統 不





うらなとらん後とらん

秘女<sup>并</sup>乃之平とらん後とらん

物

或物預希、る以のる以とらん後

中そ女の意<sup>怒ん</sup>のる以とらん

与統りつまるも下廻れ

とらん

女<sup>の</sup>のいあつ望園

とらん

とらん

とらん

とらん

とらん

とらん

とらん

とらん

とらん

とらん



らふしき 赤くし 又紅梅  
の鏡もたててあつた

二葉の四粒 赤馬の鏡と角

こゝろ

あつた

紙のしらべ かくるうらまへ

うらまへ かくるうらまへ

かみり 秘伝の 築田の書

しほとま 阿の耀カマリ 日本紀

あつた

女の細 馬鏡の伝へるうらまへ

うらまへ

見しうらまへ かくるうらまへ

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

こいさじらんまのあぢよ

後成り判約之あぢよあぢよとして  
善節の平一りたりあぢよあぢよと  
しきんらあぢよしうれいあぢよ  
繩とあぢよとあぢよあぢよあぢよ  
あぢよあぢよ

あぢよあぢよ

あぢよあぢよ

あぢよあぢよあぢよあぢよあぢよ

あぢよあぢよあぢよあぢよあぢよ

あぢよあぢよあぢよあぢよあぢよ

あぢよあぢよあぢよあぢよあぢよ

あぢよあぢよあぢよあぢよあぢよ

あぢよあぢよあぢよあぢよあぢよ

あぢよあぢよあぢよあぢよあぢよ

あぢよあぢよあぢよあぢよあぢよ

あぢよあぢよあぢよあぢよあぢよ

あぢよあぢよあぢよあぢよあぢよ









圖書

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

私業言家傳

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



いことおりえ〜

花乃鏡〜

えい〜花紅葉〜

<sup>秘</sup>其の也新れぬ葉を造化の〜

〜さけく年〜り〜りて花も〜

〜〜〜紅葉も交わの阿〜

造化の〜人〜あ〜あ〜と〜

〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

わの肝要〜と〜一段と付女乃

大向の〜〜と中おら〜

〜〜あ〜あ〜と〜新〜

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

わの〜〜あ〜あ〜あ〜

〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

或州脚〜鏡〜花紅葉〜

年〜の〜あ〜あ〜あ〜

〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

くの一のさかき

鳥乃のさかき

河絶光葉夕葉

之見

日本紀

弄

自乃乃花紅葉さく時乃乃乃乃

若乃乃乃事や乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

